

目錄

人讀み未き故にハコ
一スにならむ言はれ
が、未き故にハコ
だつ。おやハコ
一スにならむ言
しかし、昭和八年に海軍
新聞の記事になつた
る。記事は絶えず、同
年五月一日午後一時頃の
ことである。新聞紙の國
領川付近の道路で
ハコを運れ、
た娘とて親子の
牛を運れた男が、出でし
は体力ではかならずしも
惚つたらしい。その
牛牛に飛びかき、鼻に
食ひつき離さない。子牛
は悲鳴を上げて駈け回
る。道路はしばしば通行止
めになつた。
やがて、ハコは伊藤を
牛馬商に向かつて、た時
のいである。
ハコが突然親牛に飛び
かかり、後の方へ食ひ
つた。裏庭の橋の中に



入られた。その風景
が、めづかしい。大抵は
の診断を受ける。往ては
ないが、救急調子で運ば
れた。一方の牛だか
りやれど。一方の牛だか
り口を消毒し手当てを
受けて土間に向かう。
以上が記事内容であ
る。

何故に牛は牛と沃闊
したのか。沢津から船木
に行つた傳ひ道までの十
以上の短足歩行による
極度の疲労が、牛は自暴
の初夏すなへん」として
掲載されている。戦前
の地方新聞には今日では
到底記事にならないもの
が由来事も記録されてい
る。人々の驚きの断片
が見えて、結構飽きない
読み物である。

(読賢 盾雄・愛媛大客
員教授)

四季錄

鐵道が東から新唐浜・西条まで開通したのは大正十年。新唐浜から西条までの海岸線の景観が開通したのは昭和九年のこと。成り行きとして新唐浜と西条を結ぶ交通手段の整備が組上に載る。バス路線の開設である。「一貫利会社」に代わる事業ではない」と新唐浜・西条両町議会は――致。賞和を第一義とする公益主義であるる。民間の事業申請も相次ぐ中、新唐浜自動車交通組合が昭和九年二月発足。鉄道局に認可申請。しかるにかなが許可が下らない。「公其団体の經營は損失が続くと事業を廃止することが多し。民間だと何とかなう道路を走る。西条商店街の入口には開通を祝したアーチができていた。西



桑田役場前で折り返し、
 新居浜を目標す。既に満
 員の盛況。片道五十分。
 三区间に分け料金設定。
 全区間で二十五銭。開設
 三日間の乗客には記念タ
 オルを配った。バスカー
 年は紫紬のべレー帽に紺
 サージ折り襟の上着、青
 かかわらず蒲席。車体色
 は青。料金は、四区間に
 分け、一区间五銭。全区
 間で二十銭である。



めに「交通弱者」などとい
 みんがやうである。

料金で生活圏域を拡大
 した銀バス・青バス。人
 々の年の八月
 は一日九百人が利用。両
 町の商店街・料理店・興
 行ホールは暴雪が盛況ぶ
 りを呈した。

バスはバス型
 十六人乗りと十二人乗り
 二種（森賀 廣雄・愛媛大客
 員教授）

されていた。
 桜・松・竹・梅号と命名
 新居浜東部各村と新居
 浜町を結ぶバス運行を自
 担す東新自動車交通組合
 も設立された。昭和十一
 年八月二十三日午前六
 時、発車。当日は雨にも
 かかわらず蒲席。車体色
 は青。料金は、四区間に
 分け、一区间五銭。全区
 間で二十銭である。